

が活動的で、運動量が充分であるときには、活動欲、運動欲を充たし喜んで求め楽しんで遊ぶものである。

今後の幼児身體教育に望むところはものは唱歌遊戯萬能をすて、幼児の遊戯衝動中に眞義を見出し、彼等の近い經

## 幼児と日光浴

東京大森めぐみ幼稚園長 岩村清四郎

の本体になり過ぎてはるはしますまいか。

### 日光浴

日光浴を云ふ事を、素肌を太陽に曝す。云ふ意味丈けに取るに幼稚園からは相當縁の遠いものになりませうが、そうでなく、幼児を太陽に親しませるに云ふ意味なら之れ位易い又大切な事はありますまい。

今日の幼稚園——ご大まかに呼びかけたら云ひ過ぎになるかも知れませんが、少く共都會の幼稚園は「幼児と日光」を云ふ事にされ丈け注意を拂つてゐるか私は聞いて見たいのです。初代幼稚園に於てフレールは、雨の日を除いては殆どの時間を戸外で過したことは忘れられてはしまいかも氣遣ふものであります。餘りにお仕事が、遊戯が保育

験に立脚し、季節的な運動と生活環境を考へ、組織的に考案されたる運動を系統的に配合し、極めて自然にしかも自由に彼等の遊戯生活の中に結合され、身體機能の合理的な發達發育を遂げしむるこそが、幼児教育の眞諦である。

私はさうかして幼児の皮膚を空氣と日光に曝したいと思ひまして色々な工夫をして見ました。其第一は日光浴であります。南向きの庭に三間三間のコンクリートの廣場を造りました。北の方は園舎に遮られて北風は來ません。西側には八尺高さの風切りを立てました。南と東丈けがあいてゐるのです。コンクリの上に相當厚いゴザをしいて用意します。午前十一時が一番よいのですけれ共、保育の最も大切な時間なので、其時間を取り切れません。遂にお食後

云ふ事になります。お食事が十二時半に済んで、一ミ休みして一時から致しました。

「日光浴をするからおべへを脱ぎませう」

ミ云つて私が一番先きに脱ぐのです。元氣のいゝ子供はサッサミ大喜びで脱ぎます。男の子も女の子も皆上體丈け、即ち臍まで出すのです。列を作つて並び互に影にならないやうに坐らせませす。二三分もするミ自然に落付いて來ますからそうするミ、

「片一方のお手々で、片一方のお手々をなでなさい」

ミ云ふ號令で一二々々ミ元氣よくなでさせませす。一ミしきり、なで終るミ。

「こんどは「つちの手」

ミ云つて、あべこべの手を摩擦させませす。次に、同じ方法で兩手で自分の胸體を摩擦させ。次に、前の人の背中を互にこすらせませす。此時は實にクライマックスで一同大喜びです。之れが一通り済むミ、今度は太陽に向つて裏向けに坐らせ直します。そして同じこみを繰返させませす。が此時間約十分から十五分であります。之れが済むミ直ぐに保

姆が手傳つて着物を着させませす。

僅に十分か十五分ですけれ共、之れをやつた後の氣持ちは、やつた事のある人でなければ分らない、さわやかな氣持ちです。

之れは十月位から始まつて十一月、十二月一月二月ミ、ずつミ續けるのです。「十二月一月の寒氣の最中にやれるか」ミ質問せらるゝ方があるかも知れませせんが、私は何の躊躇もなく、「やれます」ミお答へします。

最も、右申したコンクリの上では嚴寒に入つてくるさいくからお天氣がよく共、風が強いミ流石に寒いので、私は、自分の住居の方に、お座敷の先きへ二間の七尺の日光浴道場をつくりました。硝子戸四枚共皆雨戸式に一方へ繰込めるやうにしました。そうするミ、座敷の出先きですから、天井もありますので、外は如何に風がすすんでるても吹き込んで來ませせん。

日光浴の時間は大體右に申したやうに、十五分限度ですが、書物や何かを見るミ、最初は手や足の先きを五分間曝せミ云ふやうに指導してありますけれ共、あれは病人の事

でありまして私共のは健康児ですから大部話が違ふと思ひます。

最も着物を脱がせる前には整列をさせて、私の額ミ子供の額をつける方法によつて熱のあるか無いかを確かめます。私の額は熟練の結果、殆ど体温計と同じ位に云ひ當てます。そして微熱のある子供さんは裸にしないのみならず、改めて一分計を入れて体温を計らせます。

こうして、熱のある子供を警戒するこゝは甚だ簡単ですが、困るのは臆病な子です。「裸になれば風を引く」こ毎日のやうに云ひ聞かされてゐる子供は、仲々キモノを脱ぎません。此種の子供は一番日光浴が必要なのですけれど、家の人も恐がるし、當人も嫌だと思つて申すものだから、遂ひ其まゝにしてしまふ外ないのです。甚だ残念な事です。も少し、手でもあれば何か出来ると思ふのですが、之れの出来ない子供が、何時も十人位はあります。實は此子供をさせてやらないならば意味がないのですが、私共の幼稚園は虚弱兒本位の養療院ではないのですから、見すく見逃してゐます。

其結果は、日光浴なきやらずに共よい位な元氣な子が一

番先きに眞裸になるこ云ふ事にもなりますけれど、六十人中、五十人が日光浴をやれば、先づノゝよいこしなければなるまいかと思つてゐる次第です。

日光浴をする日は必ず日光直射の日丈けを選ばねばなりません。之れが仲々得易くありません。秋の小春日和、正月の無風の日なき申分なく樂しめますが、此様な日の少い事を残念に思ひます。それにいくら天氣がよく共、私が内に居て、先達になつてやらないと思ふやうに出来ないものですから、其日も又一つの制限になります。

最後に皆様のおきゝになりたい事は、

「それをやつたために、され丈けの効果があつたか」

こ云ふ御質問は存じますが正直な所統計も何も取つてゐません。「日光浴をやる前よりもやつた後はお風を引かないやうだ」こ云ふ言葉は親からも聞き、私共もさう思つてゐますが、それを報告用に統計を取る術を知らない事を残念に思つてゐます。けれ共悪るからう筈はありません。

## ○スノコ

何處の幼稚園に行つて見てもお庭にお内ミが餘りに整然と區別のついてゐる事は私の注意を引きます。庭に出るに

は必ず下駄又は靴を履きかへなければなりません。ブランコに行くのにも迂り臺に行くのにも一々履き物をはきかへねば行かれない處から遂ひ子供達は因循になつて外へ出たがらなくなる。私共は幸に東京の郊外で、ふんだんの地面を持つてゐますから前項で申上げた三間に三間のコンクリートの廣場から續いて「子供の家、ブランコ、迂り臺、プール等を覆ふ六間に四間位のスノコの大廣場を作つてゐます。スノコ云ふのは雨の降つた時も雨ざらしにして置く間のすいた板の間です。コンクリからスノコの上は、上は履きのまゝで出られるのです。雨さへ上れば三十分の後は完全に表に出られます。

### ○芝生

同じ主意から五間の七間程の芝生をスノコ續けて置きます。芝生の上はカバーをはいては出ることは許されませんが、裸足なら其まゝに走ることを許されてゐます。ですから、子供が裸足でさへ居ればお庭は誠に廣い、氣持ちのよいものになります。之れ丈けの設備には相當のお金と氣苦勞がいりますけれど、子供を日光に曝すこと云ふ主意からは當然然るべきものと思ひます。お金がゐるに申しまし

たが、右申した六間に四間のスノコ(日本杉大拔で張りつめ)五十圓程です。手入れさいよければ五六年は持ちます。芝生は特に金はいりませんけれど、之れを年中青々として置かうと思へば相當専門的の知識を子供を育てる程の注意がいります。

其代り、之れ丈けの、内から續いた庭があるに子供が活潑に戸外に出ますから保育は非常に樂です。

### ○裸足

裸足は私の最も主張する所です。

『ハダシの子供は丈夫になる』

云ふことをモットーのやうにして獎勵して居ます。九月一杯は誰一人カバーをはくものはありません。十月も然りです。それでも十一月になるに半分ははきます。昨年のおきはさうく冬中カバーをはかなかつた子供が三人居ました。私の方の母の會でカバーを作つて全國の幼稚園に賣り出して居乍ら、自分の所ではカバーを履かないことを獎勵するのは一見矛盾のやうですが、事實履かせないことを獎勵してゐます。之れやはり素肌に空氣と日光の原理から來てゐます。